

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
共通教育科目	113	1年	後期	看護学科	選択	環境科学 Environmental Science	30	2
担当教員								
河野 公栄*								
関連するDPキーワード（看護学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
<p>人類を含む地球上のあらゆる生物が、人間活動に起因する気候変動や化学物質汚染など深刻な地球環境問題に直面している。これら様々な環境問題の発生原因に人間活動がどのようにかかわっているのか、人間活動が地域社会や広く地球環境に及ぼす影響の実相について認識を深め、また問題解決に向けた国際社会の対応など、最新の動向についても学ぶ。さらに今日、国際社会で基本理念として普遍的に認識されている「持続可能な開発」に基づく環境保全の在り方に関する科学的素養を身につける。</p>								
到達目標（授業目標）								
<p>身近な環境問題から地球規模の種々の環境問題について、今日の問題の現状を把握し、それらの背景にある原因、地球環境に及ぼす影響とその低減化に向けた対応策について説明することができる。さらに我々をとりまく環境の保全のあり方について自分の考えを培い、豊かな教養と人間性を涵養する。</p>								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
回								
1回	公害と環境問題：公害対策基本法、環境基本法							
2回	公害の歴史（1）：水俣病、イタイイタイ病							
3回	公害の歴史（2）：国連人間環境会議、持続可能な開発							
4回	地球温暖化（1）：異常気象、温室効果ガス、							

5回	地球温暖化（２）：I P C C、国際的な取組								
6回	オゾン層破壊（１）：オゾン、フロンガス								
7回	オゾン層破壊（２）：紫外線による皮膚がん、国際的な取組								
8回	酸性雨（１）：水素イオン濃度、化石燃料								
9回	酸性雨（２）：森林衰退、国際的な取組								
10回	土壌流亡と砂漠化：土壌侵食、塩類集積、国際的な取組								
11回	人工有機化合物による汚染（１）：世界保健機関(W H O)、残留性有機汚染物質(P O P s)								
12回	人工有機化合物による汚染（２）：ダイオキシン類、食品汚染、耐容1日摂取量(T D I)								
13回	放射性核種による汚染（１）：放射性核種、原子炉、核分裂								
14回	放射性核種による汚染（２）：原子炉事故、ウラン、放射性廃棄物								
15回	問題解決への取り組み：国連環境計画(U N E P)、世界自然保護基金(W W F)								
16回									
17回									
18回									
19回									
20回									
21回									
22回									
23回									
24回									
25回									
26回									
27回									
28回									
29回									
30回									
成績評価方法及び基準									
定期試験による成績評価で60点以上を合格とする。（なおレポート提出を課した場合は、レポートも評価対象とし、配分等についてはその際に説明する。）									
教科書	授業時にコピー資料を配布する。								
参考図書等	本間 慎「新データガイド地球環境」（青木書店、2009年）、及び図書館の関連書籍など。								
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）									
授業の進捗に合わせて、配布プリントや関連図書などを用いて1時間程度の予習・復習を行って欲しい。									
関連科目									
前科目	基礎科学A～C	122	生物学	123	化学	124	物理学		
後科目									
実務家教員									
備考	遠隔授業の場合、配布プリントの内容も授業動画に組み込んでいる。なお、遠隔授業での質問は、教務担当の方を介して回答することができる。								